

府中町あるさと歴史散歩

〔第36回〕

えの宮公園の水害記念碑

多家神社のそばにあるえの宮公園の中に「水害記念碑」(写真①)という石碑がある。道沿いであるため、見たことのある方も多いかと思うが、この石碑が建てられた経緯について説明したい。

大正15年(1926年)9月11日に府中村では天保7年(1836年)以来の大水害に遭った。

前日の9月10日午後11時頃までは満天澄み渡り、星も鮮やかに瞬いていた。翌日の11日前0時をまわった頃に、黒い雲が空を覆ってきたと思つたら、バケツをひっくりかえしたような大雨となり、午前1時頃には村内の各河川が満水となり、午前2時頃には各地で被害が出始めた。午前3時頃には各河川に架かってい

る橋が全て流され、午前4時ごろには堤防が十数か所にわたり決壊し、耕地が殆ど全て浸水し土砂・流木が流れ込んだ。このため家屋や人的な被害が出ただけではなく、薄暗い中を村民の逃げ惑う姿、泣き叫んで助けを呼ぶ声があちらこちらで見聞きされ、とても悲惨な状況であった。午前5時過ぎには雨も止み始め、この頃から青年団・軍隊などの救援活動が本格的に始まった。午前6時過ぎには一面に広がっていた水が引きはじめ、午前7時には天候も回復し、晴天となつた。

村内では倉本嘉一郎村長以下役場の職員、駐在所の巡回が被害状況調査と応急手当とともに家具の整理を行い、

道路の復旧(応急)工事は青年団・軍隊などの活躍により数日後に完了したが、当時の倉本村長が「何から着手してよいか、村が根こそぎ破壊された現状では見当もつかぬ有様(『安芸府中町史第一巻』から)と表現したように村内全体の復旧作業、水害を防ぐための河川改修作業は数年かかり、完了したのは昭和2年(1927年)頃であった。その後、村内が一体となつて行われた復旧作業と大水害の被害について忘れないことを目的として昭和19年(1944年)9月に「水害記念碑」として今えの宮公園内に建てられた。

なお、被害について『芸州府中荘史』では次のとおり記録されている。流出全壊家屋30戸・半壊・半埋没家屋90戸、浸水家屋239戸、浸水した耕地216町歩(約2・14km²)、死者3名、負傷者2名、堤防決壊25か所、道路決壊30か所。(参考として昭和5年当時の調査で全家屋数が820戸、人口が3,702人との記録がある。)



写真① 水害記念碑
(えの宮公園内宮の町三丁目)



写真② 水害当時の様子
(『安芸府中町史第一巻』から)

道路の復旧(応急)工事は青年団・軍隊などの活躍により数日後に完了したが、当時の倉本村長が「何から着手してよいか、村が根こそぎ破壊された現状では見当もつかぬ有様(『安芸府中町史第一巻』から)と表現したように村内全体の復旧作業、水害を防ぐための河川改修作業は数年かかり、完了したのは昭和2年(1927年)頃であった。その後、村内が一体となつて行われた復旧作業と大水害の被害について忘れないことを目的として昭和19年(1944年)9月に「水害記念碑」として今えの宮公園内に建てられた。

府中町文化財保護審議会委員
教育委員会生涯学習課
尾尻重巳

問い合わせ
☎ 286-3272